彩板
張入

傳燈錄抄 二

宮

特別
へ13
4469
2

へ13
4469
2

儒織御紙幕

二之巻　目録

第一　縄手の渡　御見のかへりげけ物り
ゆ〻ゆ　しるの内てうと
今ゆき刀のゆ史打立
ある道を横合軍だ

第二 浦山乃段

所々りろこーヶ月ヶ日ヶ
四面よそびこ所差岩の
大和知者と知ちさの長
和中ゆ山ゆ人ゆ雅の乃ゆ

第二 浦山乃段

蕨やさるへ元り色ゆつの乃ゆよたい和秋の乃ゆ
て又風十ゆ月ゆ民差のゆ人ゆくてのゆ乃ゆけん揚ゆ夜夏
乃村ゆ水田のゆ乃ゆれの百姓ゆ乃ゆ北乃方ゆ乃ゆ
ゆあゆつゆよゆ世の史ゆ人ゆさゆ人ゆ人ゆ行ゆ乃ゆあゆ人ゆふと
ゆりゆくゆうゆさゆ乃ゆる瀬川ゆねゆ乃ゆつゆと人ゆ乃ゆ歌の
うゆさんゆ乃ゆ人ゆと乃ゆ人の奴ゆ人ゆ乃ゆ人ゆ乃ゆ人ゆ乃ゆ追
村乃ゆと乃ゆ人ゆ乃ゆ人ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ
奴ゆ色ゆるゆりゆ三北ゆくゆと章弦天ゆ乃ゆ乃ゆ常ゆ乃ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆと朱雀の村の中ゆ乃ゆ乃ゆ雲ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ

蜜たのりのうさぬ中ぬの女とおとこ有みのこころざしこ
つしく世そんくたる女のあさにはてゝ物れりのまてこいとさろ
よつくこゝ帝にのこ男なとろうたくまつちんろけうねめさ
んゝうこれくゝとぬうゝものうくはれすそこころゆるま
りかうろこゝ海くいさもたへうるさいとあるはるとろく
海をこみされはおハ敷ゝりう流川うねめうおそうつこゝぬうむ
ちんをるらくのやうさをひうけるうさ軍のなうまてこと爲て
おうたれとも追ものの大勢ぬせさかゝ柏木うぬうものさいとと
やくうもるゝこと物うひとこうねめ兄弟をおるうまつうさゝ三ぬう
むちんのたくゝ正兵士の矢ぬうのうり物てくこうつて

娘こうれるうもるつて先をたゝぬひんの柏木ことをきれう
ゝ元れハいくこゝよ大行少石ひろいてかうちくゝカのむゝ
うう者ゝ柏木みもゝこうう伝そと物こゝ
くゝカを校かゝうこさ見ゝぬうゝの若痛中くゝ見てハ伝
ハるくゝもうねめさん娘こをこ伝ア立のこさゝ追ゝ伝のゝ
まるこもひ柏木うゝ人おたゝもふくこすゝあくれうとせな
うゝ娘こをおくハ別れの者の中と物れうもうの場うゝ伝の
とすゝの立捨らるくくこゝ伝ハ今うも追ゝかうたう
娘こゝ立ハたうこ伝そ尾くくゝ切ぬゝ行くくこゝとゝ乃
うこ別れハこまぬ国の長形もるこ娘こゝの投かけこ

四ちうこうは足ばうてうくんをやとい
うかゝ横合軍をいせんのいきをつかまつ
よりこれは横合軍をひたりのうらなりおとされぬ
やうやうちゝのあがりとさうなるおとされ
めのむいりさうくとあがきたりとされくゝ又ところ
四ほうにきもせをきてんちうにゑんと名いたり
弓矢たけんよりのをとは一のいそはのうえと過
二ばゝそうふとぬゝうるこ血ゝあるゐ井のもすそ
をひくゝ京のさ又迄よりとうをとうちをもうく
の神くをたとうゆく

才二 城しの乃浦

惡霍數級とかゝりて大勝の一番とかゝりて千ちうけさと
ばうは一ばうのうちよりあつまりて瀬踏軍の海の浦ゝ摩
と強う防ぎ防ぎ蜀の生ぬれ早よ起り地雷よりあまもる
ひく波行のいさをい書題する文のいとまよりりと今ま
る四海の逆浪ろうはきめあるる日ぐもいさゝまくぬゝひゆさ
けき大海を富士領久ぎをいそをぬうさんるるゝてを此
いを正ゝ秋のをうゆも是行の色ゝの城乃大震ゝ上波ゝ
久ゝ強ゝのひなを海のゝ長命市ゝの大内冠ゝまゝ
の京ゝ波ゝ八雲の扇ばうもかゝ是ゝ此の扇末ゝ也

ことにこのついに西海の方へ結ぶおほ
和出そのかの首領大道寺
の庭へ入ること三千騎ばかり
する城のよ数千の軍勢結ぶ
幸ひ
いそ
立ひろ
の
三十余騎
也

まつ
まひ
寺
沢田
おの
せぬ
ら
ちつ
道
せい

大道ちかき所なれば時よりてはさまたげ
をなすこれあるよし知てき蜂起せ
らるべきなり文軍さるの一ぶ長のことはうむろん
弦おく人首うこれのみにつきそこはら首は樗ようちよる
近て恩賞行屯ねなまそ軍勢浪浦のあれて
ら今ゆきいらけたまれとれ長の近ねるあむひ先云
信ちを在世の時人ゆまれ武蔵のちれ日ぞ六十余れの
外庵主ともおちさくんらのれ大をもむ近く生害れ舎
業信春ほはやせらるお廛のれうち五郎ちをいれ奥
知のちれ云ぬうむんもんをんるまえふこるちくせのを一

像まちさちる宮海道よ石碑とをて浴湯の牡丹ゆ葉を
ちくと一日の文先も信春云の作石碑の云中ゆ和歌こ
せそうれ云のらゆと中よ幸代のひ宮仏ちれ和歌院
ちゆるゆ小御子の宮仏天下ゆたりうを色のつき代久ちふ
天ゆ下ゆちゆ知ゆ色をれ色つ石碑の文ハ信るのいちうん
そ石ゆうくくれそうんよと信よゆのくゆとちうちを色
れ敵もちゆまうちるゆの変列をおおのれうむものそこてく
こゆ仏大結図ゆよ色やさうゆ石ゆと面社
のうよ合法ち石ゆれきくとさ一宝くゆもいうれうる
先ハ云ゆれも色ちすもくうゆと浴湯の牡丹ハ裏系の文仏

五葉松なくしてこれをすゑおくべき天下のさたき
といふと雖て初春のおほ波との花ゝのひとえうゑをはり
まいとよそへ生てもちをもんの言葉前波利末少年 此文故
の神ゝをはしをれおよむしい和学振丹の私至さとゝも、こゝろ
先ゆゑ九くゝ一句の中作りと篇より巳たる謎字の文句洛陽れ
あの色れもるとさとゝ仏牡丹の牛篇牛ゆゑおそれ〳〵久
吉のひの人牛藻い花ゝり信玄のゝとつゝく又あら〳〵たよゝい
ら〳〵ふこゝろん中花とも高さゝ人とゝとゝもんの謎こそれさなき
やゝ高〳〵くれひとん歌ひゝるこゝゝ以れい人ゝ高〳〵あ朱〳〵絵玄
見い法ひゝ高あゝ生て先ゝとゝ色花ゝるゝゝの冠ゝゝゝく

尾ゝとゝも打高〳〵ぶんいゝき初い朝鮮高ゝれ〳〵ゝとゝ高ゝ人ゝ先ゝよゝ
〳〵世中華一の景色さゝん沢田河波ゝ大さゝきゝて海の浦ゝそ
飯住ゝよゝの表ゝよゝあゝねゝすく高ゝ沢ぬゝき赤のゝりふ和
ゝ沢ゝ一表ゝ先ゝの表ゝよゝ白幕ゝ高〳〵ゝ沢ぬゝき白のゝり
加表西清一表ゝ先ゝゝ和のゝんぜゝいゝ月ゝ雪ゝ月中旬ゝて追
〳〵ゝ巳づゝとせんゝ作ゝゝゝゝとゝ波ゝ高ゝ青ゝゝ人ゝ高ゝれゝおゝと
高ゝてゝゝりゝゝがゝゝて久ゝ吉ゝ高ゝのゝひ青表又高ゝ大道ゝ豊
和ゝ海ゝゝ表ゝゝいゝゝゝん〳〵ゝゝ初ゝゝ高ゝ歌ゝの高ゝごゝて巳と
巳裏ゝ表ゝの人ゝ沢酒ゝん〳〵よゝ巳ゝあゝ人ゝ人ゝお代ゝ来ゝ空ゝのゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
ゝゝとゝひゝ高ゝ教ゝゝ〳〵ゝ三ゝゝ山ゝゝ世ゝ人ゝゝ〳〵ゝのゝゝゝひゝとゝ

さあらしの法人こ時四のあ[illegible]道よりとありて天下の
おきていはるゝやうにときくもあるいはるゝときくもあるいはるゝさせ
る義なりけりと道ちゝ[illegible]ひとりこそ天下おき
ひるんのせひもちゝくいそかれやうとのれ[illegible]ものもすりたるれめ
りとはいとをとりていりるとい者義又[illegible]道ちゝもいそれね
二人ゝれうけ者義おきちゝれ大道ちゝ[illegible]おいきゝれとまゝ[illegible]
にちるんとあり[illegible]居邪[illegible]の二世も道ちゝ[illegible]二の[illegible]
なひちる義者法人ちゝ[illegible]別れてちゝ[illegible]ありひきゝ
知ゝ紀の法の者ゝ[illegible]いはるゝきの者けきとふもちゝ
法操のおたりゝて法眞の千引のふとゝ[illegible]ふ

おとこいる捆人全者あとゝ法ゝくゝ法ゝくゝ枝ゝ[illegible]の者貴
ゝ義のゝ義ゝ大たゝおとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ法たゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ふてのほゝゝゝ